

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0873900724		
法人名	有限会社 万葉		
事業所名	ゆうもあ館		
所在地	茨城県石岡市下青柳948-2 (電話) 0299-36-5710		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成21年1月23日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	24人	常勤	6人, 非常勤 16人, 常勤換算 5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	水道高熱費 24,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(平成20年9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	3名	要支援2	0		
年齢	平均 84.5歳	最低	62歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石岡第一病院、柏木病院、寿星会石岡診療所、あだち歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな環境の中で、ゆったりとした気持ちで老後を過ごせるようケアの充実を図っている。
 フラワーパークでの地域交流や漬物教室の開催、納涼祭などに地域の人々を招待し、事業所の理解と協力が得られるよう積極的に働きかけている。
 利用者の高齢化に伴い、状態の急変に対応するための職員育成に日頃から力を入れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で改善課題となっていた新しいパンフレットの作成や実習生の受け入れ、事業所独自のホーム便りの作成、面会簿の工夫など全ての面で改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員に自己評価票を配布し、取り組み状況等を記入している。 外部評価を有効に活用するため、全職員に評価の意義を再認識させるとともに、課題への対応を全職員で話し合い、サービスの質の向上に活かすことを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。 会議では外部評価結果や事業所行事への参加依頼など活動状況や協力体制づくりを協議している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関に意見箱を設置し、意見や苦情を出しやすいよう配慮している。 家族等へアンケート調査を実施したが、回答は得られなかったことから家族等が回答し易い内容や文章に変更するなど見直しを行うとともに今後も継続して実施することを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 市主催のひな祭りや中学生の吹奏楽演奏会に利用者が出かけたり、ホームの行事に地域の人々や家族を招待するなど地域と交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしい生活支援ができるよう従来の理念の項目に追加し地域密着型でホーム独自の理念をつくり実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週月曜日の朝礼時に勤務職員全員で理念を唱和し確認している。 また、職員会議で理念についても話し合い実践している。	○	理念の共有をより強化するため、日々の申し送り時に理念の理解を図る工夫を期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市主催のひな祭りや中学生の吹奏楽演奏会に利用者が出かけたり、ホームの行事に地域の人々や家族を招待するなど地域と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価票を配布し、取り組み状況等を記入している。	○	外部評価を有効に活用するため全職員に評価の意義を再認識させるとともに、課題への対応を全職員で話し合いサービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的開催している。 会議では前回の外部評価結果や事業所行事への参加依頼など活動状況や協力体制づくりを協議している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は市担当者に相談したり要望を聞いてもらうとともに助言を受けるなど、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月事業所の日々の様子を伝える「万葉だより」を家族に郵送している。 家族来訪時に利用者の近況報告を行うとともに、来訪できない家族等へは電話で報告している。 また、病院受診や買物等についても電話で了承を得てから支援をし、受診結果などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見や苦情を出しやすいよう配慮している。 家族等へアンケート調査を実施したが、回答は得られなかった。	○	前回のアンケート調査内容を家族等が回答し易い内容や文章に変更するなど見直しを行うとともに今後も継続して実施することを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用や異動があった場合は、利用者一人ひとりに顔や名前を覚えていただけるよう挨拶するとともに関わる時間に配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に介護マニュアルを渡して認知症を理解することからはじめている。 3ヶ月毎に業務達成度チェックリストで業務評価をしている。 研修の受講支援をし、全体会議で研修報告を行うことで全職員が知識や介護技術を共有している。	○	業務達成度チェック表により、基礎知識や介護技術を評価するとともに、経験者へのチェック表を作成して指標を示すなど、自信につながる評価表の作成の検討を期待する。 また、研修内容を報告するだけにとどまらず、参加者が研修会で習得したことを日常業務に活かせるよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは食事会やボーリング大会などで情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が頻繁に自宅を訪問し、顔馴染みの関係づくりを行うとともに、体験入所をしてもらうなど納得してから利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自家菜園の作物の手入れから収穫、山菜の調理方法や掃除の仕方など、利用者の経験から培われた工夫を教わり一方的なケアにならないよう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの大切なことや思い、希望を日々の関わりのなかから把握するよう努めている。 利用者自身から情報の把握が困難な場合は、家族からの情報や職員の気づきを個人記録にまとめ情報の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族も同席したケアプラン会議を開催し、意見や要望を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間利用者や家族の要望に応じて3～6ヶ月毎に介護計画を見直している。 状態の変化や区分変更が必要となった場合は、期間に関係なく介護計画を見直している。	○	家族の要望にそって見直した介護計画書に、説明したことの確認印をもらうことを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ターミナルケアや通院介助、家族来訪時の送迎など利用者の状況や要望にそって支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回医師の往診があり、利用者の状態について相談や対処方法の指導を受けている。 利用者の状態に応じて受診科や医療機関を変えるなどの支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について家族と話し合い、確約書を取り交わしているが、全ての利用者を取り交わすまでには至っていない。	○	終末期の対応について終末期対応マニュアルを作成し、全職員が対応できるよう共有することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	面会簿は個人情報の漏洩に配慮し、1回毎の面会用紙を使用している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその日をどう過ごしたいか話し合い、希望にそって支援している。 また、希望にそえない場合は利用者に説明し、時間や日程を相談しながら支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で利用者と一緒に野菜を栽培し、収穫も一緒にしている。 調理や食事の準備、後片付けなど利用者の持てる力を十分に生かして分担している。 最近では食事支援が必要な利用者が増えたため、利用者と一緒に食卓を囲むことは困難になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が気持ちよく入浴できるよう、時間の調整や順番に配慮するなど一人ひとりに合わせた支援をしている。 浴室は気の合う利用者同士と一緒に利用できる設備や安全確保のための手すりを設置するなど細かく配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野を活かせる支援をしている。 自家菜園では車椅子利用者でも作業できるよう、栽培面の高さを変えるなど工夫している。 温泉や芝居見物など外出の機会をつくり、気分転換が図れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節感を肌で感じてもらえるよう、利用者の希望にそって戸外への外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアをしている。 利用者が外に出てしまった場合は後から迎えに行くなど利用者が自由に行動できるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策委員が中心となり、消防署と連携して年2回の避難訓練や防災訓練を行うとともに、夜間訓練も計画している。 災害対策用の避難小屋に水や米など2～3日分の食糧を備蓄している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量やカロリーバランス、水分摂取量をチェックし職員間で共有している。 食事での注意が必要な利用者へは、主治医や栄養士と相談しながら量を調節するとともに、盛り付けの工夫により満足感が得られるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓にスクリーンを設置し柔らかい光が差し込むよう工夫している。 窓はこまめに開閉し、調理の際の音や匂いがこもらないように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品を持ち込んでいる利用者が少ないため写真や利用者が作った作品を飾り、利用者らしく安心して暮らせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。